# 浜町から 風の便り 51

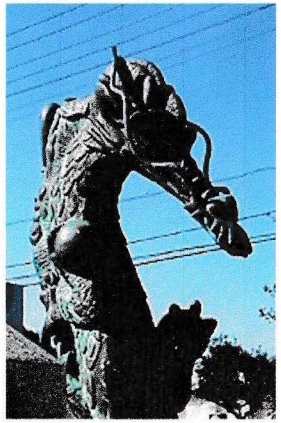
2023（令和5）/1/1. 船橋市浜町 辻 秀幸

## 龍のいる町

船橋には龍が棲む。

龍とは日本での呼び名で、インドから東に現れる。西方面、ヨーロッパではドラゴン（dragon）と呼ばれる近縁種が出没する。ドラゴンは羽を持っていて飛び、火を吐く。人々の前に現れては住まいや教会を破壊して回るので、退治すべき対象として恐れ嫌われる。日本に現れる龍は、羽は無いが天に昇る。水の神として畏れ敬われ、人間が泉など水源、水脈を大切にすれば破壊行為や人に危害を加えたりしない。龍神様とお呼びする。

信州松本・安曇両平野では、龍を母にもつ小泉小太郎が、龍や鬼やらの力も借りて、山を崩して水を引いて稲作りできる土地を開き人々を助けた。松谷みよ子が「龍の子太郎（たつのこ・たろう）」と題した少年少女向け小説に仕立てて紹介している。



船橋龍（怪獣類・神蛇目・有足蛇科）
海老川十三橋めぐりジョギングコースのスタート地点に立つ
市の広報では船橋大神宮駅出発となっていて、この龍は省略　なので寂しそうなのだ
2016/10/24.
船橋・浜町2.「ららぽーとTOKYO-BAY」西館北側

船橋には「ふなっしー」がいる。

船橋産梨の果汁で満たされた梨の妖精である。船橋市民の前に現れた時は、いい加減で大雑把な姿に、何だこりゃといぶかられた。ところが、跳ねたり水に潜ったり「体内」でギターを弾いたりとサービス満点で、なにより子どもらと会話できる、ということで人気沸騰。いい加減な外見で姿を現したのも好感度アップに幸いしたのかもしれない。今や立派な船橋市民。市の広報にも駆り出されるようになった。船橋市の人口に数えられているかは不明。全身全霊でサービスするのでエネルギーが長続きしない。市のPRやらのイベントに参加すると、短時間で楽屋に引っこみ、肩でぜーぜー息しているらしい。妖精も高齢老化するのだろうか。

ふなっしー・梨神様（なしがみさま）（ユルキャラ類・妖精目・船橋フッショイ科）
妖精が神様に昇格賽銭箱も鳥居もある　クリスマスにはサンタクロースになり、ハロウィンにはカボチャの帽子を被る　日本の神様なのでなんでもありなのだ
御神酒には梨のワインをよろしく
2018/7/23.
船橋・浜町2.「ららぽーとTOKYO-BAY」





船橋にアラレちゃんが来た。

アラレちゃんとは、天才博士・則巻千兵衛（のりまき・せんべえ）が1967年に、13歳の女の子をイメージして製作したアンドロイド。見かけは女の子だが、博士の研究不足で外も内も女性としての機能は無い。成長しない。うっかりド近眼のままにしたのでメガネが必要。皮膚は間近で発射された拳銃の弾を跳ね返す。カエルの盲腸の手術ができる。♂♀記号付きの数式を富岳並みとはいかないが京ぐらいのスピードで計算できる。飛べない。武器を持たないが石を投げて月をぶっ壊す腕力を持つ。

この研究成果はぜひとも、二足歩行ロボットがなんとかやっと、という現在の世に広めてほしかったが、博士についての情報は西暦2000年で途絶えた。ギャグマンが仕立てで紹介した鳥居明大先生が知っているかもしれない。

ゲンゴロウ島ペンギン村モモンガ1番地から船橋に来たのは、軽自動車「ハスラー」販売のお手伝い。

則巻アラレ（ロボット類・ヒト型目・遊び専科）
このスタイルで「キーン」と叫びつつ飛び回って遊ぶのが大好き
住まいは　ゲンゴロウ島ペンギン村モモンガ1番地
2016/6/7.
船橋・浜町2.「ららぽーと」
©鳥山明／集英社・東映アニメーション

船橋には乙姫様がいらっしゃる。

浦島が助けたカメは乙姫様の化身だったともいわれる。龍の奥さんだともいわれる。龍が病気になったので、奥様がお医者様探しにやってきたのだともいう。

水の神様。美人で神様となると弁天様（弁財天・吉祥天）というのが日本人の常識。弁天様は水と富の神である。水と富と美人の神様ということで、乙姫様とごちゃまぜにしてしまったのは海の民、船橋漁民としては自然の成り行きだった。ということで、海老川の八千代橋（やちよはし）のたもとから豊漁と安全を見守っていただくことになった。「乙姫弁天」とお呼びする。

差し出すのは「リュウグウ」みやげの玉手箱か。中身を見たい気がするが、怖い気もする。

ふと考えた。浦島太郎は釣りざおを肩に亀の背に乗って竜宮城まで行ったというが、海中で呼吸できたのだろうか。ひょっとすると亀はタイムマシンで、異次元を経験したのではなかろうか。相対性理論の世界だ。

乙姫弁天（民話類・神仙目・海科）
太郎を案内したカメはアカウミガメのメスで産卵のために上陸したところをみつかりいじめにあったのだとは学者先生の冷静な解説
2021/3/24.
船橋・八千代橋東詰め